

小学校社会科歴史授業の教材開発力育成の取り組みについて

－「小学校教材研究Ⅱ」高度化の試み－

甘利弘樹* 青柳かおり**

(令和6年2月15日受理)

【要旨】 本論文は、小学校社会科歴史授業の教材開発力育成の取り組みについて分析するものである。当該の分析を通して、上記能力の育成に裨益する新たな授業方法が見いだされた。

I 問題と目的

本論文は、小学校歴史教育における教材開発力育成の授業の改善・発展に裨益する新たな授業内容を提示するものである。

土居晴洋・青柳かおり・甘利弘樹・黒川勲・小山拓志・鄭敬娥「小学校社会科教材開発力育成の取り組みと課題—『小学校教材研究Ⅱ』の事例」（『教育実践総合センター紀要』40 2023年。以下、前稿と記す）において、小学校社会科における教材開発力育成の取り組み状況とその課題が明らかにされたが、歴史教育に関する記述における青柳・甘利の担当箇所において、新たな授業内容の提案事項が生じるようになった。

そこで以下本論文では、上記の提案事項をまとめることにより、小学校歴史授業における教材開発力育成の具体像を明らかにしたい。

II 分析と考察

1 前稿における記載内容

まず前稿の記載内容を明示しておく。なお、各パラグラフの冒頭、あるいは複数の文章の冒頭に付した【1】、【2】…の数字は、のちの考察のために便宜上設けたものである。

【1】 第5週は、第6学年「日本のあゆみ—文明開化とくらしの変化」である。この小単元で

* あまりひろき 大分大学教育学部初等中等教育コース

** あおやぎかおり 大分大学教育学部初等中等教育コース

は、知識・技能として、わが国では明治維新以降、欧米の文化を取り入れて、近代化を進めたこと、思考力・判断力・表現力として、社会の様子や文化遺産に着目して、わが国の歴史の展開や歴史を学ぶ意味を考えることを学習指導要領は求めている。

- 【2】最初にマスメディアが提供する映像資料を活用した。つまり、活動1として、「NHK for School」のコンテンツの一つである「歴史にドッキリ」(福沢諭吉～文明開化)を視聴し、そこから得られる情報として、明治になって新しく導入したものと、市民の暮らしがどのように変わったのかを整理した。同コンテンツはNHKがインターネットを通じて配信しているもので、各教科に多くのコンテンツが提供されている。本授業で視聴した10分程度のコンテンツは、文明開化によって欧米の近代的な機器や社会的制度が導入され、わが国の暮らしのあり方が大きく変容する過程を、大分県出身の福沢諭吉の業績と関連させながら紹介している。
- 【3】なお、このような有益なコンテンツを教材として利用したいと考える受講生が多いと思われることから、教材として活用する際は、それらの著作権に十分に注意しないといけないことを指摘した。つまり、本授業で利用した上記コンテンツは、教育目的での利用が認められていることを同コンテンツサイトが明示している。しかし、テレビや書籍、インターネットなど、多様なメディアで提供される資料やコンテンツは、基本的に著作権によって、その使用には制限が課されていること、将来、学校現場でそのようなコンテンツを利用する場合には、教育委員会等に確認して、使用の許諾を得ているかどうかを確認する必要があることを説明した。
- 【4】福沢諭吉に関しては、中津市教育委員会が資料集を発行していることや、中津市に公益財団法人が運営する「福澤諭吉旧居・福澤記念館」があり、見学ができることなどを紹介した。また、中津市に限らず、多くの地域で、それぞれの地域の歴史的偉人や遺産を学校教育に活用することを目的とした副読本が発行されていることも指摘した。
- 【5】明治維新において大きく変化した教育事情を理解するために、活動2として、教科書に掲載された江戸時代の寺子屋と明治期の学校の様子を描いた2枚の絵を比較して、どのように学校が変わったのかを考察した。
- 【6】なお、絵図や写真資料の読み取りに関しては、甘利が作成した資料を用いて、子どもの意見をたくさん出させることで、広い視点から資料を読み取ることができることや、複数の絵図や写真を使い、比較のための発問を工夫することで、類似点や相違点に気づくことができることを紹介した(図6)。
- 【7】最後に宿題として、活動3において、受講生が小学校教員になって、文化財等の歴史的施設の見学を行うことを想定して、身近な地域にある文化財を挙げ、その文化財を見学することの意義を考察させた。また、校外施設の見学を行う場合には、事前に教員自身が現地調査を行うことや、見学当日は安全に配慮しながら、観察や聞き取りによってわかったことをメモとして記録に残すこと、事後として、施設への礼状を作成することなどを説明した。

なお、【6】にある図6については、次のページに示したとおりである。

■ 絵画・写真資料の読み取り方

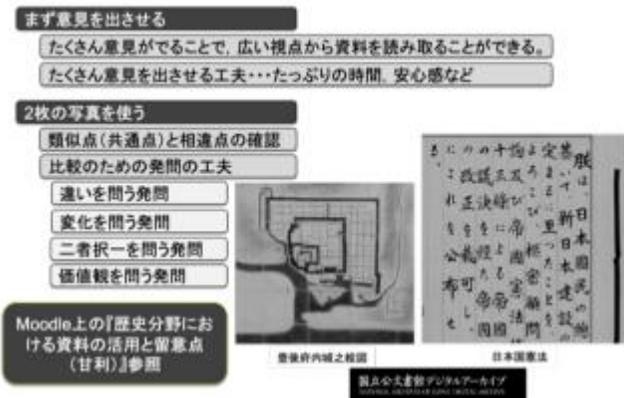


図1 前稿「図6 絵画・写真資料の読み取り方」

2 前稿の分析・考察

以下、【1】～【7】各項目に関して分析・考察を行う。

【1】単元とその位置づけ

第6学年「日本のあゆみ～文明開化とくらしの変化」は、平成29年度小学校学習指導要領解説編社会では、下記のように表されている。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ケ) 黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを手掛かりに、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解すること。

(シ) 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

この内容は、幕末から明治の初めの頃の学習で身に付ける事項を示している。ここでは、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などの事象を取り上げる。

アは、「知識及び技能」に関わる事項である。アの(ケ)は、知識に関わる事項である。

黒船の来航については、ペリーが率いる米国艦隊の来航をきっかけに我が国が開国したことや江戸幕府の政権返上に伴い勝海舟と西郷隆盛の話し合いにより江戸城の明け渡しが行われたことなどが分かることである。

廃藩置県や四民平等などの改革については、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允らの働きによって明治天皇を中心とした新政府がつくられたこと、明治天皇の名による五箇条の御誓文が發布され新政府の方針が示されたこと、明治政府が行った廃藩置県や四民平等などの諸改革によって近代国家としての政治や社会の新たな仕組みが整ったことなどが分かることである。

文明開化については、福沢諭吉が欧米の思想を紹介するなど欧米の文化が広く取り入れられ

たことにより人々の生活が大きく変化したことが分かることである。

これらのことを手掛かりに、幕末から明治の初めの頃、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解できるようにする。

アの(シ)は、技能に関わる事項である。

例えば、黒船の来航の様子や明治政府の諸改革などを写真、絵画、世界地図などの資料で調べたり、明治政府に関わる人物などの業績と主な出来事などの関係を年表や図表などにまとめたりすることなどが考えられる。ここでは、写真や絵画など第6学年の目標及び内容の資料から世の中の様子や人物の業績に関する情報を適切に読み取る技能、調べたことを年表や図表などに適切に整理する技能などを身に付けるようにすることが大切である。

イの(ア)は、「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項である。ここでは、社会的事象の見方・考え方を働かせ、例えば、どのような背景から黒船が来航したか、黒船の来航を当時の人々はどのように受け止めたか、開国によって人々の生活はどのように変わったか、新政府をつくるために誰がどのように活躍したかなどの問いを設けて、当時の欧米諸国はアジア進出を進めたこと、黒船の来航後に近代化が進み欧米の文化が取り入れられたこと、明治政府は廃藩置県や四民平等など諸改革を行ったことについて調べ、これらの事象を関連付けたり総合したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、文章で記述したり説明したりすることが考えられる。

実際の指導に当たっては、例えば、ペリーの肖像画や黒船来航の絵画などから江戸幕府や当時の人々への影響を考える学習、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允などの人物のエピソードや資料などを基に明治政府の諸改革について調べる学習、『学問のすゝめ』を手掛かりとして福沢が欧米から新しい文化や考え方を取り入れたことを調べる学習などが考えられる。

以上の内容をふまえた授業がなされるとともに、その授業に適した教材の開発及びその教材を使いこなせる能力が望まれる。

上記のことをふまえつつ、授業構成は以下の通りで進める。

1) 今日の到達目標

- ・社会科の学習指導要領に記載された目標・内容、評価規準を理解する。
- ・映像資料、絵画・写真資料を活用する意義を探究する。
- ・文化財見学について方法と留意点を理解する。
- ・グラフの活用の在り方を理解する。

2) 学習活動

■ (10分) 導入

- ・今日の到達目標と予定の確認・前時の振り返り（教材を活用した探求の流れ）

■ (10分) 学習指導要領、評価規準の確認

- ・小単元において何を学ぶのか、どのような力を養うのかを理解する。

■ (10分) 班活動1「文明開化の授業を行う」① 一映像資料による学び方一

- ・文明開化のキーパーソン福澤諭吉の重要な役割を理解する。
- ・映像資料で学習する際の留意点を身につける。

■ (10分) 班活動2「文明開化の授業を行う」② 一文化財見学のメソッド一

- ・福澤諭吉旧居を見学するときに必要なこと。
- ・文化財を学ぶ方法・留意点の把握。
- (15分) 班活動3「文明開化の授業を行う」③ ―絵画資料による学び方―
 - ・江戸時代の寺子屋と明治時代の学校との比較。
 - ・絵画・写真資料の有効性と留意点。
- (10分) 班活動4「文明開化の授業を行う」④ ―グラフの読み取り―
 - ・就学率の変化のグラフから考える。
 - ・グラフの特性に対する理解。
- (15分) 班活動5「育成される力を確認しよう」
 - ・「班活動1～4」を通して、どのような力が養われたのかを確認する。
- (10分) 次週の連絡、片付け

3) 班活動の概要

班活動1：映像資料を視聴して「内容としての気づき・資料としての気づき」を書く。

→両者から、有効な映像資料としての使い方をまとめる。

班活動2：文化財を見学に行くときの必要なことは何か？

ヒント：事前・見学当日・事後の各ステップについて考える。

班活動3：子どもの立場に立って、寺子屋と学校の違いについて、絵をもとに気づいたこと・調べてわかったことを書く。

班活動4：子どもの立場に立って、就学率の変化のグラフを見て、児童が出すと予想される「わきお」(わかったこと・気づいたこと・思ったこと)を書く。

班活動5：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に向かう態度の各評価規準から授業を考える。

4) 実際の授業展開

「文明開化とくらしの変化」の授業展開を通して、歴史学習の教材について学ぶ。

【班活動1の導入】(擬似展開)

T…教師 S…生徒

T：(福澤諭吉の写真を見せて) この人はだれでしょう？

S： 壱万円札の人、福澤諭吉。

T：どこで見た？

S：お札、テレビ、本。

T：この人は大分県の人です。

T：なぜこの人は、有名なのだろう？映像を観て考えてみよう。

【班活動1の開始】10分

- ・映像資料 (DVD を5分放映)
- ・映像資料を視聴して、「内容としての気づき」・「資料としての気づき」を班内で分担し、動画終了後に、班全体で「両者から、有効な映像資料の使い方」を、ノートにまとめる。

【班活動1】の終了後、解説(次の内容をパワーポイントで示す)。

■映像資料の注意事項と対応

「映像資料は、大人向けのものが多い」

「情報量（映像・ナレーション）が、小学生にとって多いこともしばしばある」

→映像資料を、何も手を加えず視聴させるのは避ける（授業時間全体も考慮）、授業を受ける小学6年生に適した資料にする、編集することにより、編集者である教師の見方・考え方が反映される。

・言葉が難しい。

→前もって教師が難しい言葉をわかりやすい言葉に置き換えたプリント（ワークシートがあれば、それに掲載してもよい）を用意・配付する。あるいは口頭で述べる。

・ナレーションが速い。

→キーワードを、口頭あるいはプリントで予め教師が示しておく。ナレーションの聴き取りは、学習の評価の中では重きをおかない。

・映像が速い。

→正確さ・精密さをせっかちに求めない（福澤諭吉旧宅を「家っぽいもの」、慶應義塾大学を「なんとか大学とか」とメモしても、不当に低い評価としない）。

・テロップが出てくるが、表示が短い・意味が難しい。

→書き取れないことをマイナス評価につなげない、漢字で全ての語を書き切れないときは、教師がフォローする。

・教室後方の児童が、テロップを見えるか・ナレーションが聞こえるか。

→教材研究の段階で確認を済ませておく。授業当日にも対応（手ぶりを付けながら「このくらの字が見えない人は、椅子を移動して前に来ていいよ」と発言）。

【班活動2の導入】

映像と「福澤諭吉旧宅」を見学する授業について考える。

【班活動2の開始】10分

文化財を見学に行くときの必要なことは何か？

ヒント：事前・見学当日・事後の各ステップについて考える。

【班活動2】の終了後、解説（次の内容をパワーポイントで示す）。

■文化財見学のポイント¹⁾

○事前にあること *授業で事前説明の前には、教員が見学対象の基本データ及び利用条件を調査。可能であれば現地調査。

・テーマを設定する：何を調べるのか焦点化する。ガイドがいる場合は、質問事項を準備する。

*質問は、教科書、資料集、もしあれば教師の用意した資料をもとに考えさせる。

質問作成のポイントは、次の3つ：1.（教科書や資料集を）引用する 2. 自分の考えを述べる 3. 具体的に書く（「数字」を問うのが最も具体的）

*質問の発表会を行ってもよい。

・見学スケジュールを、クラス全員で確認：必要に応じて、プリントの作成・印刷・配布、口頭で注意事項を説明。

・マナーを守るように指導。

○見学当日

・注意事項の再確認

・メモをとる：タイトルを書く。

簡条書き…どんな小さなことでも記録する。五感を働かせる。番号をつけさせる。

<簡条書きのメリット>ノートが見やすくなる、個数が確認できる、子どもが簡潔に書こうとする、など。

・ガイドがいる場合は、質問をして回答をメモする。

○事後にすること

・教室で見学した内容を発表する（個人あるいはグループ）「最初のテーマについてどのくらいわかったか」確認する。→まとめ

・見学したときのメモをもとに、さらに調べ学習をする。→発表・まとめ

・ガイドがいた場合には、礼状を書く。

【班活動3の導入】

班活動1で着目した福澤諭吉の役割として、教育者としての活躍が挙げられる。このことは教科書にも掲載されている。次の班活動として、明治時代の学校を江戸時代の寺子屋と比較しながら、江戸時代から明治時代への移行の中で、どのくらい学校が変化したかについて考えてみる。

【班活動3の開始】15分

子どもの立場に立って、寺子屋と学校の違いについて、絵をもとに気づいたこと・調べてわかったことを書く。

【班活動3】の終了後、解説（次のページの内容をパワーポイントで示す）。

■絵画・写真資料の活用²⁾

江戸時代の寺子屋と明治時代の学校の比較

<班活動3のプリントの記入例>

| | [寺子屋] | [学校] |
|------------|------------------------|-----------------------|
| 教えている人の服 | 和服（着物） | 洋服 |
| 教えている人の教え方 | 一人ずつ個別に教える | 全員にいっせいに同じことを教える |
| 子どものならび方 | ばらばら | 同じ方向を向いている |
| 部屋のようす | たたみの上にすわっている 黒板がある | 洋室でいすにすわっている 黒板がない |
| その他気がついたこと | 先生のほかにも教えている 子どもがいる | 掛け図みたいなものがある |

調べてわかったこと

寺子屋は年のちがう子どもが
いっしょに勉強している
学習内容も別

学校には同じ年の子どもが
いっせいに同じ内容の授業を
受けている

■絵画・写真資料の見方（メリット5点）

①全員に学習を保証する。

印刷して配布，あるいはスクリーンで拡大して示す←→本物は，触れられない子どもが生じることがある。

②見せたい場면을限定することができる。

見学とは異なり，見せたい情報に集中させることができる。

③時間を切り取ることができる。

絵画・写真の「時間が止まっている状態」の前・後を，子どもが考えることができる。

④直接見られないものを見ることができる。

例えば，航空写真。また，見学に行けない場所・施設を見ることができる。

⑤準備が簡単である。

入手が比較的簡単，基本的に返却は不要（←→本物の資料）→資料集めにかかる時間を短縮し，他のことへ時間を回すことができる。

■絵画・写真資料の読み取り方

①まずは意見を出させる。

意見をたくさん出すことで，より広い視点から資料を読み取れるようになる。

意見をたくさん出せるコツ（5点）

1)何を書いてもよいという安心感を与える。

子どもはよいことを書こうとすることにより，書くことが止まることもある。

→教師が例を出して，子どもを安心させる（例。教師：「人がいる」でもいいよ→子ども：「そんなのもいいんだ」と思い，書くことに安心する）。

2)あおる・励ます。

教師：「5個書けたら3年生レベル」，「10個書けたら中学生レベル」。

3)時間をたっぷり与える。

目安として，最低5分は必要。時間が少ないと，一部の子どもだけの発言になること，意見が浅くなることが心配される。

4)確認することで，次への意欲を高める。

子どもがたくさん書いてよかったと思えるような確認を行う。具体的には，量进行评估する（たくさん書けたことを評価し，「質」は求めない）。

5)趣意説明をする。

高学年の子どもは，量を多く書くことへ疑問を持つことがある。→量を多く書くことへの趣意説明「“量より質”という考え方があがるが，質へ転化するには一定の量が必要である」。

②絵画・写真資料を見たあとの学習活動

・「わきお」を書かせる。*「わ」はわかったこと、「き」は気づいたこと、「お」は思ったこと。

「足りないものを補う」…子ども自身の経験（直接経験・間接経験）と比べさせる。

■2枚の写真を使う

2種類の資料を比べることで、類似点（共通点）・相違点が見つかり、子どもたちの視点を広げることができる。

2枚の資料…情報の取り出し、情報の比較→似ているものを見つける・異なるものを見つける。

○2枚の資料を比較して解釈させるための発問

①違いを問う発問

「2枚の絵の違いについてノートに箇条書きにきなさい」

→違いの原因やわけを考えさせる。

②変化を問う質問

「2枚の絵を比べて、変化したことをノートに箇条書きで書いてください」

③意見が分かれそうな二者択一を問う発問。

「どちらの写真が（ ）ですか？」（ ）には、例として，“古い”，“前の時代”が入る。

④価値観を問う発問

「どちらの学校に通いたいですか？」、「どちらに住みたいですか？」

■授業展開³⁾

*2枚の絵画・写真資料をもとに、「学校の制度（学制）の制定」・「文明開化」を学ばせる。

「絵からわかるように、学校のかたちが変わりました。この変化は、学校の制度が定められたことで起こりました。」

「絵からわかるように、わずか20年くらいで、人びとに大きな変化が起こりました。このことを教科書ではなんと呼んでいますか？」

*あるいは年表をもとに、江戸時代と明治時代を比較させた上で、文明開化を学ばせることも可能である。

江戸時代←→明治時代

かご←→馬車

馬←→人力車

着物←→洋服

ちょうちん←→外灯

かさ←→洋がさ

日本風建物←→西洋風建物

飛脚←→鉄道、郵便、電信

【班活動4の導入】

班活動3によって、学校の変化(=欧米化・近代化)を学んだ。次は、文明開化の実態について、グラフをもとに考えてみる。

【班活動4の開始】10分

子どもの立場に立って、就学率の変化のグラフを見て、児童が出すと予想される「わきお」(わかったこと・気がついたこと・思ったこと)を書く。

【班活動4】の終了後、解説。(次の内容をパワーポイントで示す)

■グラフの種類⁴⁾

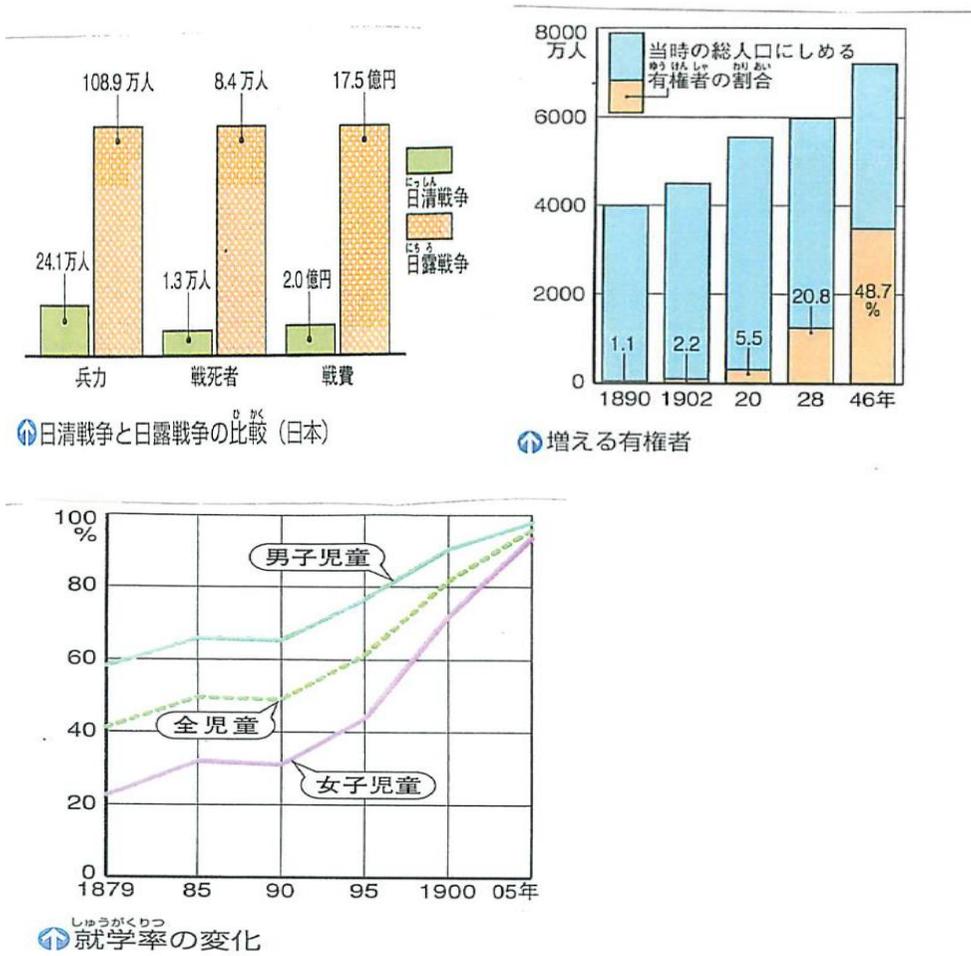


図2 棒グラフ・折れ線グラフの例

(典拠：『小学社会6年上』日本文教出版 2015年発行)

○棒グラフ：一番多いものや場所などの比較や分布を表す、また年ごとの変化を表す。

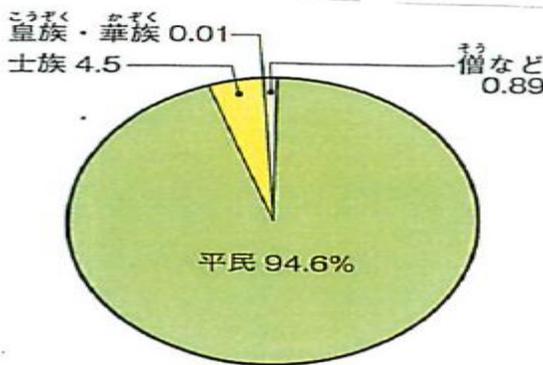
【気をつけること】・データの多い順（または少ない順）に並べる。

- ・都道府県データの場合、北から順に並べることもある。
- ・横軸が年や月といった時間軸である場合、時間の順に並べる。
- ・1本の棒に、複数のデータを表示した棒グラフは、帯グラフと区別する。
(帯グラフは、長さを揃えた棒を並べて構成比を表している)

○折れ線グラフ：量の変化を表す

(複数の折れ線で、変化を比較できる)

【気をつけること】・複数のデータを一つのグラフに重ねるときは、線の区別が
つきやすいように、線の色分けしたり、実線と破線を使い
分けたりする。



明治時代初めの新しい身分の割合

図3 円グラフの例 (典拠：図2と同じ)

○円グラフ：全体の中での構成比（割合）を見る。

(円の大きさを変えて、全体量を比較させることもできる)

【気をつけること】・データは、時計の針の12時の位置から時計回りに、大きい
順に並べる（例外もあり）。

・「その他」はいくら大きくても、一番最後に表示する。

○帯グラフ：構成比（割合）を比較する。

(円グラフと違って、帯グラフは縦に並べて示せるので、それぞれの項目の年ご
との推移（変化）を示すことができる)

【気をつけること】・構成比を見ることが目的なので、棒の長さは全て同じにする。

・項目を並べる順番を途中で変えると、割合の変化がグラフを
見てわからなくなってしまうため、一つのグラフの中では順
番を変えないでおく。

・データの多い順（または少ない順）に並べる。

■グラフの読み取りの方法と調べ学習への接続

○グラフの読み取りを行う時の「三つ」・「二つ」・「五つ」のこと（教科書・資料集では、省略されることがある）

「三つ」…①タイトルは何か：表題タイトルがないと、何のグラフかわからない。

②年度はいつか：年度がないと、いつの資料かわからない。

③出典は何か：出典がないと、どこの誰の資料かわからない。改ざん・書き換えのある資料かもしれない。

「二つ」…①横軸は何を表しているか：社会科では、年度のことが多い。

②縦軸は何を表しているか・単位は何か：数量とその単位（円やトンなど）が多い。

「五つ」…グラフの傾向を問う→児童は変化の指摘を行う。

①だんだん上がる ②だんだん下がる ③突然上がる ④突然下がる ⑤変化なし

*応用として、さらに「三つ」がある。

⑥上がって下がる ⑦下がって上がる

⑧プラトー：上がっていたものが途中で横ばいになり、その後また上がる

*プラトーは、全国ブランドになる製品によく見られる。

→グラフ（図2の「就学率の変化」のグラフ）の傾向について、原因を考える⁵⁾。

→ノートに書かせる。

アウトラインを示す（例）明治時代の女子児童の就学率が高くなったのはなぜか？

まず、国民所得の表（省略）から（ ）がわかる。

また、子守学級の回想図（省略）から（ ）がわかる。

*子守学級の回想図は斉藤泰雄氏論文所収のもの。

つまり、（ ）によって就学率が高まったのである。

→発表させる。

例：「明治時代の女子児童の就学率が高くなったのはなぜか？まず、表から1878年以降国民所得が上昇したことがわかる。また、子守学級の回想図から、女子児童が子守をしながら学校に通えるようになったことがわかる。つまり、国民が豊かになるとともに、女子児童が働きながらも学校に行けるようになったことによって、就学率が高まったのである。

→さらにこの後の展開として、教師主導になるが

・なぜグラフでは、1885年～1890年に横ばいになりながら、上昇したのか？

答えは、学校の制度が始まった後、学校に入る子どもが増える一方で、そうではない子どもも増えた。そうした動きの中で、1885年以降、学校に入る子どもと学校に入らない児童が全国的に固定化した。このとき、政府が学校制度の改革を進めたことで、通学する子どもが増えていったため。

→「教育をはじめ、文明開化は地域による違いが存在していた」

「学制」では小学校の授業料を1か月50銭くらいが適当であるとしているが、これ

は明治11年(1878年)当時、有業者1人当たり年間21円の所得であることから見ても一般家庭にとってかなりの負担であったことがわかる。(所得は、収入のこと。50銭は1円の半分)

【班活動5】(15分)

評価規準の作成(「評価の観点」(図4)を示しながら、班で協議・作成してもらう)

「我が国の歴史」における「内容のまとめりごとの評価規準(例)」⁶⁾

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に向かう態度 |
|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解しているとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解している。 遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめている。 | <ul style="list-style-type: none"> 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史上の主な事象について、主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。 |

単元「明治時代」の評価規準(例)

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に向かう態度 |
|--|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を集め、読み取り、幕末から明治の初めの頃の黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などの事象を理解している。 ②調べたことを年表や文などにまとめ、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことを理解している。 | <ul style="list-style-type: none"> ①世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、問いを見だし、幕末から明治の初めの頃の黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて考え表現している。 ②幕末から明治の初めの頃の黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などを関連付けたり総合したりして、この頃の政治の仕組みや世の中の様子の変化を考え、適切に表現している。 | <ul style="list-style-type: none"> ①幕末から明治の初めの頃の黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、文明開化などについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 |

図4 評価の観点

【2】福澤諭吉の動画について

福澤諭吉の動画としては、NHK for School の「歴史にドキリ」の他に、「維新の傑物たち」がある。後者は2018年にNHK福岡放送局で制作・放映されたもので、録画した動画を5分放映して活用することができる。

【3】著作権について

著作権に関しては、受講する学生には実感しにくいことであるが、授業の講義・演習を通して注意喚起を促していく必要があると思われる。

【4】副読本

副読本に関しては、入手が困難な場合があるので、各地域の教育委員会や図書館・文書館の情報を頻繁に確認しておきたい。また、対象地域に実際に足を運んで諸施設で入手することも視野に入れるべきである。

【5】絵画資料の比較

江戸時代の寺子屋と明治時代の学校の様子を描いた2枚の絵を比較する方法は、河崎かよ子ら『板書・授業の展開・児童用資料がよくわかる社会科授業大全集 [6年②]』に基づく。

なお、授業で用いた『小学社会6年上』（日本文教出版 2014年検定済・2015年発行）では、2枚の絵は異なるページにあったが、現行の『小学社会6年上』（日本文教出版 2019年検定済・2020年発行）では、同じページに記載されている。

【6】絵図や写真資料の読み取り

絵図や写真、グラフや統計の読み取りについては、本論文で注記したように、吉田高志編『新社会科への対応1・2』に依拠している。諸資料の読み取りに関しては、各学問分野の高度な手法があり、受講する学生がそれらに触れる機会を設けることを模索したいところである。

【7】文化財学習について

文化財学習に関しては、吉田高志編『新社会科への対応3』に依拠している。上記【6】と同様に、文化財学習にはフィールドワークの手法を学ぶ機会を確保したい。

3 終章

以上本論文では、小学校歴史授業における教材開発力育成の具体像を明らかにしてきた。

いわゆる授業テクニックに関する内容が多くなったが、その内容は、最新の情報をもとに、さらに改変が必要になるとと思われる。その改変に関する考察を含めた新たな授業提案は、後日の課題としたい。

注

- 1) 以下の文化財見学については、吉田高志編・福井グループ著『新社会科への対応3 見学のまとめを活かす授業』明治図書 2010年を参照。
- 2) 以下の絵画・写真資料の読み取りについては、吉田高志編・福岡県向山型社会研究会著『新社会科への対応1 写真類読み取りの授業』明治図書 2010年を参照。
- 3) 以下の授業展開については、河崎かよ子・倉持祐二・田中正則・西川満『板書・授業の展開・

- 児童用資料がよくわかる社会科授業大全集 [6年②] 喜楽研 2010年を参照。
- 4) 以下のグラフの活用については、吉田高志編・東京グループ著『新社会科への対応2 グラフや統計資料の読み取りの授業』明治図書 2010年を参照。
 - 5) 以下の授業展開の提案は、特記しない限り、甘利・青柳のオリジナルである。
 - 6) 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東洋館出版社 2020年 p.40。

参考文献等

○教科書

『小学社会6年上』日本文教出版 2010年検定済・2013年発行

『小学社会6年上』日本文教出版 2014年検定済・2015年発行

『小学社会6年上』日本文教出版 2019年検定済・2020年発行

○資料集

大分県教育委員会『おおいたの歴史 むかしの人びとのくらし』大分県教育委員会 2006年
河崎かよ子・倉持祐二・田中正則・西川満『板書・授業の展開・児童用資料がよくわかる社会科授業大全集 [6年②]』喜楽研 2010年

河崎かよ子・立花禎唯・中楯洋・羽田純一・松浦敏郎『改訂版 コピーしてすぐ使える まるごと社会科6年』喜楽研 2014年

羽田純一・倉持祐二・中村幸成『全授業の板書例と展開がわかる DVD からすぐ使える 映像で見せられる まるごと授業 社会6年』喜楽研 2016年

水谷邦照『調べ、考え、好きになる社会科資料集6年』文溪堂 2009年

○研究文献

TOSS/Advance 平松英史『河田流社会科 “調べ考え表現”』明治図書 2011年

斉藤泰雄「初等義務教育制度の確立と女子の就学奨励—日本の経験」『国際教育協力論集』第13巻 第1号 2010年 pp.41-55

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』東洋館出版社 2020年

吉田高志編・福岡県向山型社会研究会著『新社会科への対応1 写真類読み取りの授業』明治図書 2010年

吉田高志編・東京グループ著『新社会科への対応2 グラフや統計資料の読み取りの授業』明治図書 2010年

吉田高志編・福井グループ著『新社会科への対応3 見学のまとめを活かす授業』明治図書 2010年

○参考URL

文部科学省「日本の成長と教育」(昭和37年度)

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpad196201/hpad196201_2_011.html

総務省統計局「なるほど統計学園」<http://www.stat.go.jp/naruhodo/c1graph.html>

Challenges to Foster Teaching Material Development Skills for History

Classes in Elementary School Social Studies

–A Trial for Advancement of “Elementary School Teaching Materials II”–

Hiroki, AMARI and Kaori, AOYAGI

Abstract

The purpose of this study is to analyze challenges to foster teaching material development skills for Elementary School Social Studies. Through the analysis, new teaching methods that are beneficial to improve the above ability was recognized.

Key words : Teacher training education, Social recognition, History Classes